



能村研三推薦・今月の30句

朝礼に昭和の規律霜柱	高木 嘉久
荒星や神の異なる民と民	埴 誠一郎
まさやかな蒼穹を統ぶ一羽鷹	千田 百里
産声は呼吸のはじめ寒鼻	辻 美奈子
鬣のあるごと初湯あがりけり	岡部 玄治
一揆野の風の百弦蓮の骨	柴田 近江
白とふは言祝ぐ色や富士冬麗	七田 文子
洋書屋の梯子の細し暮早し	平松うさぎ
調律のいま高音部風花す	林 昭太郎
列島はまさに龍体初日影	大沢美智子
一樹なき海蝕の崖天に鷹	井原 美鳥
古時計鳴る雪女来るところか	栗原 公子
気負ふものほとほとそぎて枯蓮田	吉田 政江
風呂吹を煮てをり時間長者なり	田所 節子
去年今年メビウスの帯巡ること	澤田 英紀
ポインセチア原罪の色濃かりけり	榎本 秀治
能登地震火傷鉄骨風に吠ゆ	我門 行男
地上には瓦礫天には冬の月	坂下 成紘
日本海波が言葉の波の花	小林 和世
キュビスムのやうな街騒十二月	稗田 寿明
一禽の声逆光の冬紅葉	村上 葉子
限界を自分で引くな老の春	水谷 昭代
首垂れて重機はそこで用納	吉村さよ子
鯨吼ゆ黒潮の畝東海に	栗坪 和子
地吹雪にさらはれさうな真昼かな	くどうひろこ
あをぞらの痛く映りて枯蓮	小林 陽子
生かされて一語欲しくて枯野ゆく	後藤 松溪
凍て空を総出の星や明日は晴	川崎登美子
新たなるたましひ呉れし初山河	神尾 芳秀
遙かなる白き稜線初山河	工藤 良丕

沖 の 水 脈

